

RC打込み用高性能フェノールフォーム断熱材

# ネオマフォーム<sup>®</sup> DH50mm品

打込み・高断熱

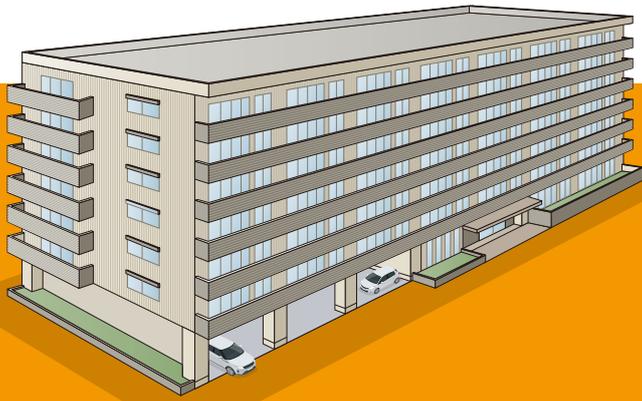
JIS A 9521 フェノールフォーム断熱材1種2号CII 両面特殊樹脂塗布品

ネオマフォームDH(コンクリート打込み用両面特殊樹脂塗布品)に、新たなラインアップ、厚さ50mm品が加わりました。

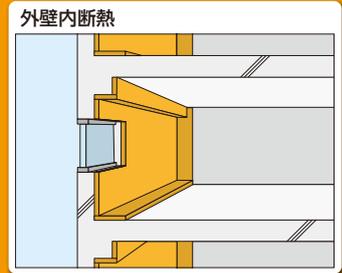
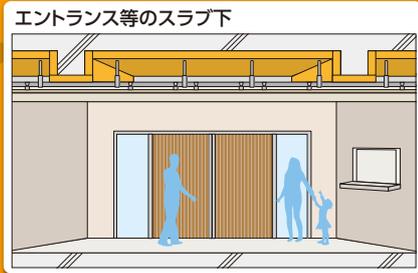
厚さ50mmで熱抵抗値2.5 [(m<sup>2</sup>・K) / W] をクリア可能で、高断熱性能が要求されるZEH-MやZEB等、より高まる断熱要求に対応できる商品です。



2023年5月発売開始!!



用途例



ネオマフォームDHの特徴

**1 高断熱性能 熱抵抗2.5を厚さ50mmでクリア**

ネオマフォームDHの熱伝導率は0.020 [W / (m・K)]。最高レベルの断熱性能で、熱抵抗2.5 [(m<sup>2</sup>・K) / W] を厚さ50mmでクリアできます。

**2 階高を低く抑え、空間の有効利用が可能**

エントランス等で天井(ケイ酸カルシウム板等)で不燃ラインを形成する場合、ネオマフォームDH50mmを採用することで、他素材断熱材の場合よりも薄く出来るため、階高を低く、空間の有効利用に繋がります。

※駐車場等で天井が不要な場合はネオマフォームUF(不燃材料認定品)をご使用下さい。

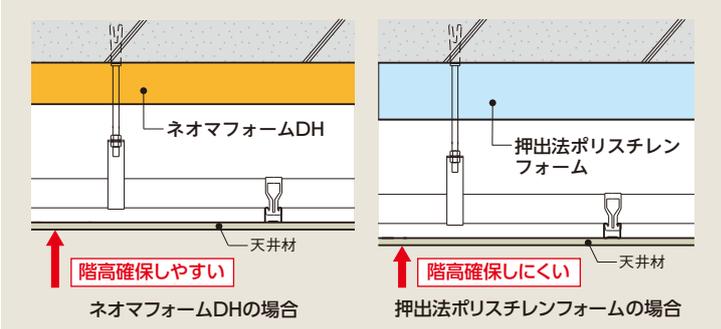
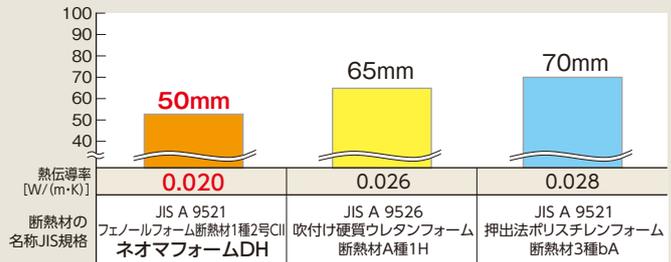
**3 RC打込みに対応、工期短縮や施工手間を軽減**

RC打込みが可能で、型枠設置時に断熱工事が完了します。現場発泡ウレタン吹付毛と比べて、上向きでの吹付作業、足場設置が不要なため、工期短縮や現場手間の計算に繋がります。

**4 耐燃焼性に優れる素材で安全**

素材であるネオマフォームはバーナーの炎に直接触れても燃焼は起こらず、炭化する性質を持っています。ネオマフォームDHも近接場所での火気作業でも容易に着火・発火しない性能を持っており、安全です。

●同断熱性能の厚さ比較 [熱抵抗2.5 (m<sup>2</sup>・K) / W]



バーナー試験 (炭化)



直上での溶接作業



ガス溶断作業

# ネオマフォームDH



※上記は、厚さ12mm品の製品外観です。  
21DH91と25DH91の片面には製品ロゴが印刷されています。

●ネオマフォームDHは表裏の区別はありません。

EI 認定対象製品

## 製品規格

品番	厚さ <sup>※1</sup> (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	熱抵抗 <sup>※2</sup> [(m <sup>2</sup> ・K)/W]
12DH91	12	910	1,820	0.6
21DH91	21			1.1
25DH91	25			1.3
50DH91	50			2.5

※1 厚さ12mm品は、断熱補強用として幅455mm、600mmの製品も用意しております。  
※2 熱抵抗はネオマフォームの断熱性をDHの断熱性としています。



## 優良断熱材(EI) 認定制度について

「優良断熱材認定制度」は一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会が優れた品質管理のもとに安定した断熱性能を有する優良断熱材(EI)を認定する制度です。  
省エネ基準適合義務化の断熱性能の確認において、JISと並ぶ第三者認定制度として利用できます。

## ホルムアルデヒド放散について

ネオマフォームDHは下記の材料で構成されていますので、内装仕上げの使用面積制限なくお使いいただけます。

ネオマフォーム40K	JIS A 9521フェノールフォーム断熱材1種2号CII☆☆☆☆ JIS A 9511A種フェノールフォーム保温板1種2号F☆☆☆☆
特殊樹脂	非ホルムアルデヒド系樹脂(規制対象外物質)

## 断熱材の基本物性(高密度(40K)品)

項目	物性値
熱伝導率 [W/(m・K)]	0.020
密度 (kg/m <sup>3</sup> )	40
圧縮強さ (N/cm <sup>2</sup> )	22

ネオマフォームの物性値は、測定データの代表値  
(試験方法) ■密度、圧縮強さ: JIS A 9521、JIS A 9511 ■熱伝導率: JIS A 1412

## 「ご採用及び施工に関する主な注意事項」

- 室内側に天井が配置される場所での採用を原則といたします。(スラブ下の場合)
- コンクリート打ち込み時のノロ等により、ネオマフォームDHの表面に若干の汚れが発生する場合があります。
- 屋根スラブ下・地下ピット部ではネオマフォームUFの採用をおすすめします。  
※ピットで水が溜まり常時高湿状態となる場所にはネオマフォームUFでも採用できません。
- ネオマフォームDHの型枠への固定は、専用の「ネオマキーパー-II」を使用することを原則といたします。
- ネオマキーパー-IIは所定のピッチで設置して、型枠に固定してください。
- ネオマフォームDHの小口および表面側にノロがまわり込まないように、相互の目地および他材との取合部でテープ止め等の処置を行ってください。
- 型枠脱型時は強い衝撃・振動を与えないように丁寧に型枠を解体してください。
- ※その他、詳細についてはネオマフォームDH施工要領書をご参照ください。

## ■ ネオマキーパー-II

品種	釘の長さ	ネオマフォームDH
ネオマキーパー-II・A	38mm	12mm
ネオマキーパー-II・B	47mm	21mm
ネオマキーパー-II・C	51mm	25mm
ネオマキーパー-II・E	76mm	50mm



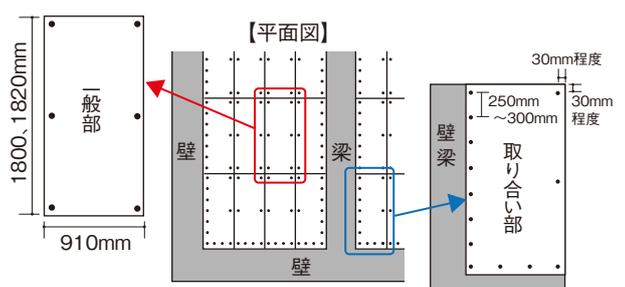
カラーと釘



カラーと釘をセットした状態

## 固定ピッチの目安(スラブ下の場合)

端部から	約30mm
一般部	910mm(6本/枚)
取り合い部	250~300mm



## ■住宅仕様基準における断熱材の熱抵抗の基準から求めた、断熱等性能等級4、5への適合に必要なネオマフォームの厚さ(鉄筋コンクリート造等)

部位	断熱材の施工方法	省エネ基準(等級4)										誘導基準(等級5)								
		1~2地域		3地域		4地域		5~7地域		8地域		1~2地域		3地域		4~7地域		8地域		
		基準値	必要厚	基準値	必要厚	基準値	必要厚	基準値	必要厚	基準値	必要厚	基準値	必要厚	基準値	必要厚	基準値	必要厚	基準値	必要厚	
屋根又は天井	内断熱	2.5	50	1.6	35	1.2	25	0.9	20	0.7	20	3.3	66	2.3	50	1.6	35	0.7	20	
	外断熱又は両面断熱	2.3	50	1.6	35	1.1	25	0.9	20	0.6	20	3.1	66	2.2	45	1.6	35	0.6	20	
壁	内断熱	1.9	40	1.2	25	0.8	20	0.8	20	-	-	2.1	45	1.4	30	1.2	25	-	-	
	外断熱又は両面断熱	1.4	30	1.0	20	0.7	20	0.7	20	-	-	1.5	30	1.1	25	1.0	20	-	-	
床	外気に接する部分	内断熱又は両面断熱	2.0	40	1.4	30	1.0	20	0.8	20	-	-	2.6	60	1.9	40	1.4	30	-	-
		外断熱	3.5	70	2.0	40	1.3	30	1.0	20	-	-	5.3	110	3.2	66	2.0	40	-	-
	その他の部分	内断熱又は両面断熱	1.2	25	0.8	20	0.5	20	0.4	20	-	-	1.7	35	1.1	25	0.8	20	-	-
		外断熱	2.2	45	1.2	25	0.7	20	0.5	20	-	-	3.5	70	2.0	40	1.2	25	-	-
土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分	内断熱、外断熱又は両面断熱	1.7	35	0.6	12	0.6	12	0.6	12	-	-	1.7	35	1.7	35	0.6	12	-	-
		その他の部分	0.5	12	0.1	12	0.1	12	0.1	12	-	-	0.5	12	0.5	12	0.1	21	-	-

※基準値:熱抵抗の基準値[(m<sup>2</sup>・K)/W]、必要厚さ:ネオマフォーム該当厚さ(mm)、ネオマフォームDHに該当しない厚さの場合は、ネオマフォーム後張りをご検討ください。

## 旭化成建材株式会社 <https://www.asahikasei-kenzai.com/>

本社 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町1-105(神保町三井ビルディング) TEL.03-3296-3531 FAX.03-3296-3535  
札幌 〒060-0002 札幌市中央区北二条西1丁目1(マルイト札幌ビル) TEL.011-261-5443 FAX.011-261-0975  
仙台 〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-1-1(仙台ファーストタワー) TEL.022-223-8171 FAX.022-211-9526  
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-11-11(名古屋インターシティ) TEL.052-212-2251 FAX.052-212-2257  
大阪 〒530-8205 大阪市北区中之島3-3-23(中之島ダイビル) TEL.06-7636-3838 FAX.06-7636-3828  
福岡 〒810-0012 福岡市中央区白金1-20-3(紙与薬院ビル) TEL.092-526-2107 FAX.092-526-2492

●お問い合わせは